

 in ガーナ

みんなの力で道を直す！ 土のう工法

NPO法人道普請人



ガーナの農村地域に続く赤土の道。雨期にはぬかるみ、農作物を市場まで運べなかったり、病気になってもお医者さんに診てもらえないなんていうことも日常茶飯事だ。

そんな道を簡単に直す方法を伝えているのが、NPO法人道普請人。必要なのは土のうだけ。ぬかるんでしまう部分の土を袋に入れ、それを敷きつめたら上からたたいて平らに固める。最後に土をかぶせれば、雨が降ってもぬかるまない道の完成だ。今後は住民グループを組織化し、道の改修を請け負うことで、現金収入のアップを目指す。



土のうを敷きつめてみんなでたたいて平らにする。必要な器具も村にあるもので簡単に作れる

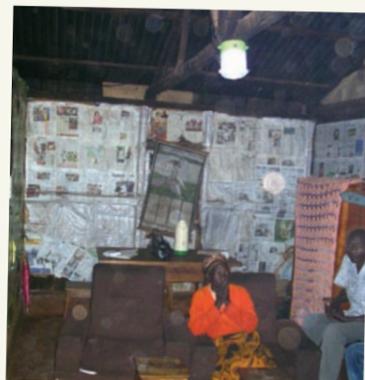
 in ケニア

クリーンでコスト減！ ソーラーランタン



パナソニック株式会社

電気が通っていないケニアの地方部でよく使われる灯油ランプ。一度つけると、部屋中が黒煙だらけ。灯油は価格が高い上、健康にも悪く、火事の原因にもなっている。人々の生活を照らす光を届けたいと、パナソニックが普及を目指すのがソーラーランタン。晴れの日には太陽光に当てると、6～8時間で充電完了。LED電球が約8時間光る仕組みだ。コストはかからず、環境への負荷もない。太陽光発電や蓄電池など、省エネ分野で製品開発で世界をリードしてきた同社。その技術が詰め込まれた品質の高さがウリだ。



ソーラーランタンのおかげで夜でも部屋に明かりがとまり、快適に過ごせるように

 in ルワンダ

トイレが快適に！ 微生物を使った 消臭剤



株式会社オーガニック・ソリューションズ・ジャパン

トイレに注がれる茶色い液体。その正体は、オーガニック・ソリューションズ・ジャパンがルワンダで販売している“消臭剤”。乳酸菌や酵母、枯草菌を独自の製法で培養したものだ。

ルワンダでは、ほとんどの家庭のトイレがくみ取り式。汚物処理が適切に行われていないため、トイレ＝汚い場所というイメージが強く、草むらなどで済ませてしまう人も。この消臭剤を定期的にトイレに入れば、悪臭のもととなるアンモニアなどの分解を早め、臭いなくなる。赤痢などの病原菌を媒介するハエなどが集まらなくなり、病気の予防にも効果的だ。



村々を回って消臭剤を販売するスタッフ。使い方はトイレに入れるだけ

特集 BOP BUSINESS
新たな市場はココだ！

ここがすごい！ ニッポンの技術

ビジネスを通して、開発途上国の人々の生活を改善したい。そんな企業やNGOの新しい取り組みを支えるのが“ニッポンの技術”だ。

 in バングラデシュ

焼かない!? レンガ



亀井製陶株式会社

バングラデシュでは、ガンジス川が運んでくるきめの細かい土を使ったレンガ作りが盛ん。しかし、レンガを焼く時に大量の二酸化炭素が発生し、粉じんや灰などが多く出る。製造に携わる人々の多くは貧困層で、職場環境も過酷だ。

そんなレンガの常識をくつがえしたのが、美濃焼で知られる岐阜県多治見市の亀井製陶が開発した“焼かず”で作るレンガ。灰やプラスチックくずといった廃棄物を主原料に、セメントなどを練り込んで圧縮するオリジナル製法。二酸化炭素や排水、ごみを一切出さず、日本では道の舗装やガーデニング用品として使わ

れている。今後バングラデシュで工場を作り、現地の廃棄物を活用してレンガを生産する体制を整えていく。



大量の土、水、燃料、そして人手が使われているレンガ作りの改善を目指す

 in バングラデシュ

安全な水をたっぷり！ “AMAMIZU” タンク



株式会社天水研究所

私たちの命を支える水。バングラデシュの沿岸部ではヒ素汚染や塩害が深刻で、池の水や地下水の多くが飲み水には向かない。現地の人々は昔から“モトカ”と呼ばれる素焼きのかめに雨水をためて飲んできたが、容量が100リットルと少なく、すぐに割れてしまう。

しかし、天水研究所が販売する“AMAMIZU”は違う。モルタル製のタンクで、1,000リットルもの水をためることができる。製造コストは低く、頑丈で15年以上使えるのが特徴だ。マラリアなどを媒介する蚊が侵入しないようにタンクのフタにはネットを、水をくむ時に直接手で触らないようにタンクに蛇口を付けたりと、現地の衛生事情に合わせて開発

を進めた。AMAMIZU本体や設置料金などを含めた販売価格をBOP層の手が届くように設定し、タンクの維持管理や修理方法についても指導を続ける。



衛生面に考慮して工夫を重ねる村瀬誠代表(右)